

3. 子どもの生活に関する実態調査について

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

塩竈市の子どもとその家族の生活実態や支援のニーズや利用状況、将来の貧困に影響を与える可能性の要因等を把握し、本市児童の健全な育成を図る支援と「貧困の連鎖」のリスクを抑制するために、調査を実施しました。

(2) 調査期間、調査対象者及び調査方法

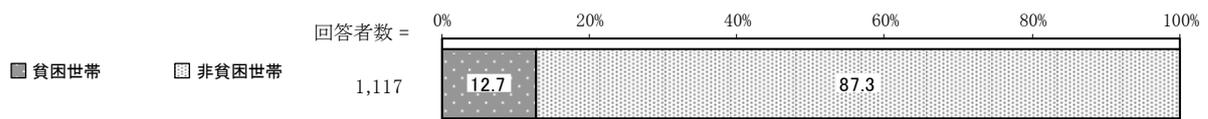
調査期間	令和2年11月25日～令和2年12月9日	
調査対象者	〈児童・生徒〉 ・市内小学校に通学する小学5年生 ・市内中学校に通学する中学2年生 〈保護者〉 ・上記児童・生徒の保護者全員 ・0～18歳未満の子どもを持つ保護者 (無作為抽出1,000人)	(関係機関) ・市内小中学校教頭 ・市内公立保育所所長 ・本市スクールソーシャルワーカー (SSW) ・市内関係団体、庁内関係課
調査方法	・無記名のアンケート調査票を郵送及び学校を通じて配布・回収 ・世帯年収から割り出した「貧困世帯」と「非貧困世帯」の回答を比較して、生活の現状を把握する	・関わりのある子どもと家庭の状況や支援状況などについての調査票を配布・回収

(3) 回収状況

調査対象者	配布数 (人)	回収数 (人)	回収率 (%)
学校配布 (保護者)	789人	649人	82.3%
学校配布 (児童・生徒)	789人	683人	86.6%
郵送配布 (保護者のみ)	1,000人	555人	55.5%
小中学校、保育所、SSW	19人	17人	89.5%
関係機関及び庁内関係課	10人	9人	90.0%

2. 調査結果 (親子の調査より一部抜粋)

(1) 貧困世帯の割合



本調査においては、世帯収入が“貧困線”以下の世帯を「相対的貧困世帯 (貧困世帯)」としました。

“貧困線”とは等価可処分所得 (世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得) の中央値の半分を相対的貧困水準 (“貧困線”) とする国民生活基礎調査の定義に基づいたものであり、本調査では、保護者調査の世帯年収の質問の回答より“貧困線”を算出しました。

(2) 教育に係る経費について

保護者への質問：お子さんの教育にかかる経費について、負担が大きいと感じるものはありますか。

(単位：%)

区分	回答者数 (件)	保育料・授業料	学用品費(制服、靴、ノ トなど身の回りのもの)	学習費・教材費	給食費	金 修学旅行費などの積立	地域のクラブ活動費	学校外の教育費(塾代、家庭 教師や通信教育にかかる費用)	その他	負担が大きいと感じて いるものはない	無回答
貧困世帯	142	26.1	50.7	34.5	19.7	45.1	6.3	32.4	9.2	18.3	2.1
非貧困世帯	975	15.8	26.1	14.7	9.3	18.3	2.6	40.1	4.7	28.6	2.5

(3) 子育てに関する悩み(保護者への質問より)

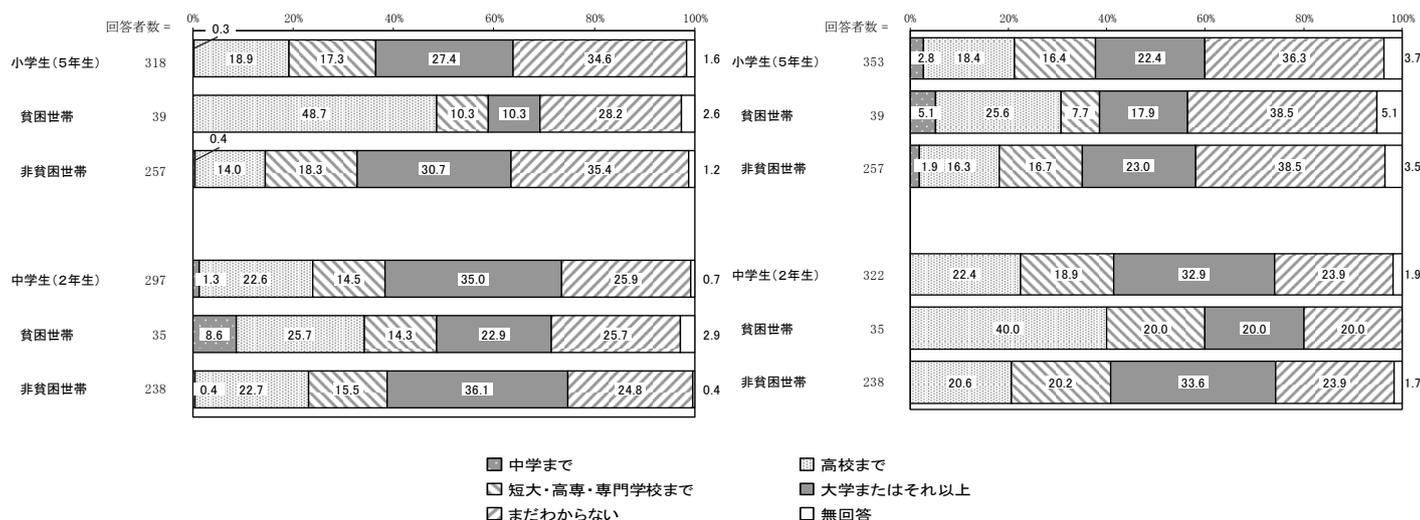
保護者への質問：お子さんや子育てについて、現在悩んでいることはありますか。(単位：%)

区分	回答者数 (件)	子どもに対するしつけ や教育に自信が持てな きる人がいない	子育てについて相談で きる人がいない	難しい 仕事と子育ての両立が 難しい	自分の時間が持てない	子育てのストレスをう まく解消できない	子育てを手伝ってくれ る人が身近にいない	子どもが勉強をしない	子どもの発育や体調が 心配である	子どもが学校に行くこ とを嫌がる	子どもの教育費が心配 である	子どもに十分な食事を 与えることができない	その他	特に悩みはない	無回答
貧困世帯	142	33.1	5.6	25.4	33.1	17.6	11.3	25.4	19.0	14.1	50.0	2.8	5.6	14.1	2.8
非貧困世帯	975	24.6	4.0	16.7	23.1	9.2	5.6	19.1	14.3	4.8	28.9	0.8	5.7	27.1	3.2

(4) 進学希望

保護者への質問：お子さんは将来、どの段階
まで進学すると思いますか。

児童・生徒への質問：あなたは、将来、
どの段階まで進学したいですか。



3. 今後の方針について

本調査において明らかになった現状を踏まえて、「教育支援」「生活支援」「経済的支援」「就労支援」などの対策や事業を検討・実施してまいります。また、今回の調査結果を関係機関と共有し、連携を深めることで、「貧困の連鎖」のリスクの抑制を図る取り組みを行ってまいります。